

平成 21 年 11 月 13 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉 井 信 光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：執行役員 財務部長 鷺本 晴吾
電話番号：(03) 5733-2121

平成21年9月期業績と前期の実績との差異に関するお知らせ

平成 21 年 9 月期（平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）の連結業績は、前期の実績に対して下記のとおり差異となりましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成21年9月期連結業績と前年実績値との差異

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 期 実 績 (A) (平成 20 年 9 月期)	14,165	△8,240	△9,114	△7,160
当 期 実 績 (B) (平成 21 年 9 月期)	10,385	△20,321	△21,197	△12,091
増 減 額 (B-A)	△3,779	△12,080	△12,082	△4,930
増 減 率 (%)	△26.7	—	—	—

2. 差異の理由

【売上高】

世界的な金融市場の混乱と金融機関の融資姿勢の厳格化、実体経済の悪化を背景に不動産市況が悪化するなか、当社グループはこの環境に対応すべく、不動産会社等の既存の顧客基盤、海外を含むデット及びエクイティの投資家とのリレーション、またファイナンスアレンジに関するノウハウを生かし、財務アドバイザー業務や企業再生のためのスポンサー契約をもとにしたファイナンスアレンジを行い、年度後半にかけ売上は回復基調で推移いたしました。さらには、アセットマネジメント事業への参入、公共財関連事業の本格化など、新たな収益基盤の確立のための取組みを加速させました。しかしながら、ファイナンスアレンジの実行は前期比で減少し、プリンシパルファイナンスについても実行を抑制、回収を強化したことにより、アレンジメント手数料、金利収入とも減少しました。

再保険保証事業では、滞納家賃保証を行う株式会社イントラストの契約件数が順調に増加、売上が伸張しており、また再保険事業のCrane Reinsurance Limitedも契約増に伴い、保険料収入が増加しております。

不動産関連事業では、第1四半期に連結した株式会社ベルスの売上が貢献しました。また、投資銀行事業で担保物として取得した物件の売却及びマンション再販投資事業により売上計上しております。

なお、前期において売上の約5割を占めていたエフエックス事業については、同事業を行っていた子会社の全株式を前期末に売却し連結から除外しているため、当期の売上はありません。

【営業損益】

不動産市況の低迷長期化を鑑み、担保物件等の処分や貸付債権の引当処理を実行するなどリスクアセットの処理を徹底、財務体質の健全化を図った結果、売上原価に担保物件売却等の原価6,367百万円及び営業投資有価証券等の評価損及び売却損8,938百万円を計上し、販売費及び一般管理費に貸倒引当金繰入額、貸倒損失及び債務保証損失引当金繰入額9,410百万円を計上することとなりました。これらの結果、20,321百万円の営業損失を計上いたします。

【経常損益】

上記の通り、営業損失を計上することに加え、有価証券運用損665百万円の計上などにより、21,197百万円の経常損失を計上いたします。

【当期純損益】

ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の一部買入消却を実施したことにより、特別利益に社債償還益9,874百万円を計上いたします。また、繰延税金資産の取崩しにより法人税等調整額844百万円を税金費用として計上いたします。これらの結果、12,091百万円の当期純損失となりました。

以 上